

3. 看護職員教育システム

1) 教育目的・目標

(1) 教育目的

- ① 看護部の理念に基づき、時代の変化に即応した質の高い看護サービスを提供できる人材を育成する
- ② 常に能力開発支援を行い、生涯にわたる専門職業人としての成長を支援する

(2) 教育目標

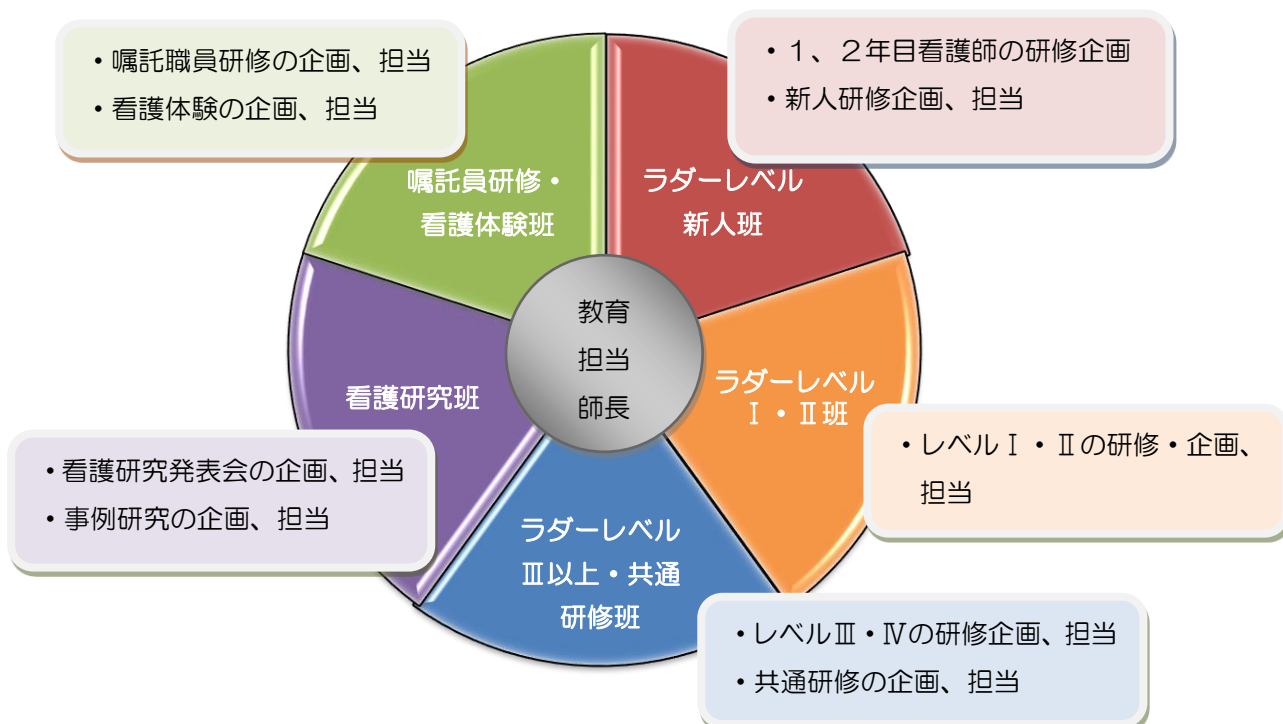
- ① 患者の生命および人権を尊重し、患者の安全・安楽を考慮し、個々の健康レベルに適した専門性のある質の高い看護を実践することができる
- ② 病院の理念や役割、経営方針を理解し保健医療チームの一員として、組織における自己の役割と責任を自覚することができる
- ③ 専門職業人として目標をもって主体的に学習し、看護実践能力を高め自己成長することができる
- ④ 他部門・他職種・地域と連携し、相互の意思の疎通を図り協働することができる

2) 教育支援体制

看護部では教育委員会が様々な教育・研究・研修に関する企画、準備を行い広く看護職員の人材育成、キャリアアップ支援に努める。



教育委員会を5つの班に分けてそれぞれ活動し、さらに全ての教育委員が各所属部署での看護職員の教育に携わる。



3) 大牟田市立病院キャリアラダーシステム

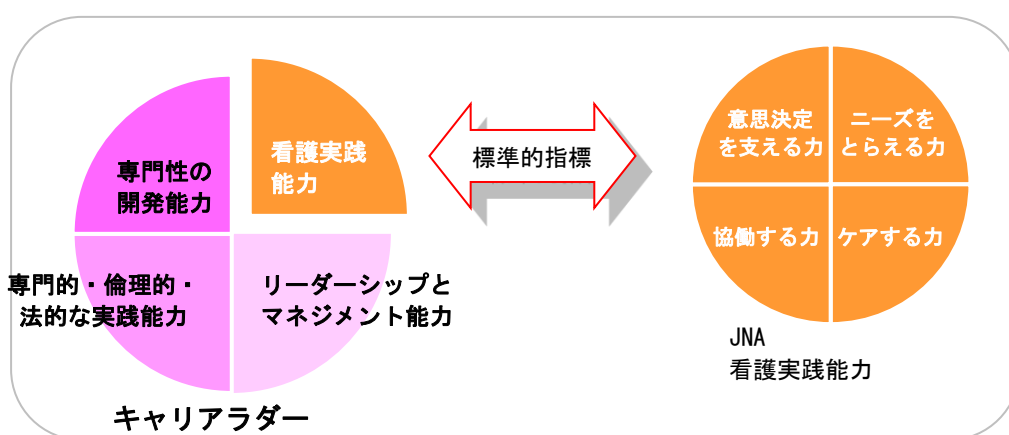
(1) キャリアラダーとは

看護師の能力開発および個人の目指すキャリア発達を支援するツールです。

(2) 大牟田市立病院キャリアラダーシステムの特徴



当院が習得を目指す『看護実践能力』は、JNA ラダーで示された看護の核となる実践能力を標準指標として活用しています。また、看護実践能力以外に大牟田市立病院の看護職に求める能力を『組織的役割遂行能力』、『自己教育・研究能力』で構成し、キャリアラダーとしています。



キャリア:「看護職の専門的な能力」 ラダー:「はしご」

キャリアラダーには下記に示すように、3つの能力があり、さらにレベルに合わせ5段階に分かれる。

＜キャリアラダー 4つの能力＞

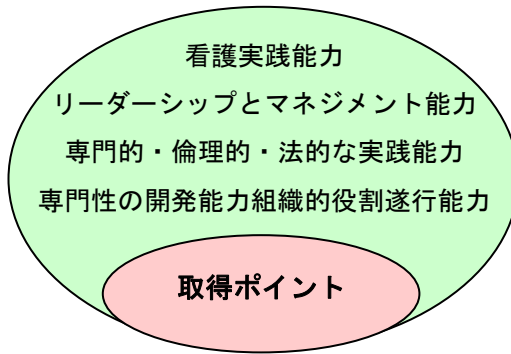
- ① 4つの看護実践能力
「ニーズをとらえる力」「ケアする力」
「意思決定を支える力」「協働する力」
- ② リーダーシップとマネジメント能力
- ③ 専門的・倫理的・法的な実践能力
- ④ 専門性の開発能力

各レベルを参考に、自己目標を立案・実施し、自己評価・他者評価・面接評価を行い、その結果をフィードバックし、次年度の目標に繋いでいきます。目標管理と連動はしていませんが、目標管理と共に個人のキャリア・アップや人材育成において活用することができます。キャリアラダーは、進捗状況を自己にて確認し、申請するシステムで自分のペースで学びを進めることができます。

(3) キャリアラダーが大切にしていること








キャリアラダーシステムでは、ポイント取得制を導入していますが、最も大切にしているのはポイント数ではなく「4つの能力」です。下記の各段階における定義等を理解し、その行動・能力が達成できるように各自研鑽をかさねましょう。



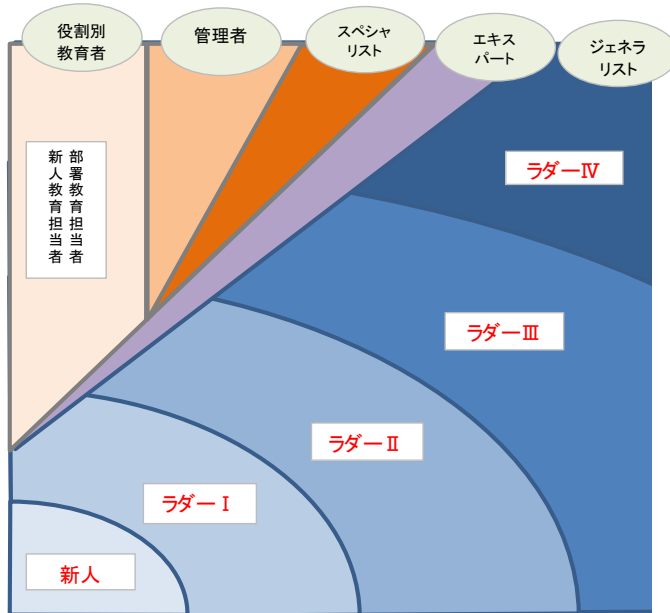
取得ポイントは臨床実践能力の一部
取得ポイントのみ高くても承認されない



(4) キャリアラダー各段階の定義

	新人-①②	レベルⅠ-①②	レベルⅡ-①②	レベルⅢ-①②	レベルⅣ-①②
レベルの定義	指導を受けながらマニュアルに沿って看護実践できる	標準的な看護計画に基づき、自立して看護を実践し、メンバーシップを發揮できる	個別的な看護を実践し、所属組織の目標達成のためにリーダーシップを發揮できる	幅広い視野と予測的判断をもち看護を實踐する。組織の目標実現のための環境整備・人材育成を行う	最適な手段を選択しケアの受け手のQOL向上に貢献する。組織の目標達成だけでなく地域に対しても組織的看護サービスの提供を行う
キーワード	助言 マニュアル	チーム内 自立 メンバーシップ	部署内 リーダーシップ 個別性 後輩育成	看護部内 専門性 人材育成 他部署との協働	病院全体 地域への貢献・連携 創造的リーダーシップ
キャリアの目安	新人 	すてきなナース 	教育者 エキスパート 	総リーダー 管理者 スペシャリスト 	ジェネラリスト 
		教育者：実習指導者 看護学校講師			

4) 当院看護部におけるキャリアアップ図



この図は、当院看護部におけるキャリアアップのイメージ図です。自分の『将来なりたい姿』がどこなのか、イメージしましょう。

キャリアラダーシステムについての詳細は、院内文書に掲載しています

院内文書→看護部→看護部委員会→6 教育委員会→B キャリアラダー→マニュアル・様式・単位表等

○マニュアル：キャリアラダーの目的
ラダー申請の流れ、飛び級の方法
取得ポイントの点数・計算方法、有効期限
レポートや研修企画書等の書類の取り扱い
課題レポートの書式
eラーニング、研修受講時の注意事項 etc

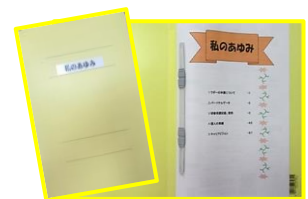
○様式：ラダー申請に関する一連の書式
各ラダーレベル別の書式集

※様式はコピーして使用して下さい。入力してそのまま保存しないようにお願いします。



5) 『私のあゆみ』

個々の目標・成果・実績(成長プロセス)を、各自が明記・保管します。
さまざまな経験や学習の記録、自己の経験や学習をマネジメントするためのツールです。
研修受講時には必ず持参するようにしましょう！
ラダー研修受講時は、受付で受講票に印鑑を押しています。





6) キャリアラダー 段階表

□：看護協会設定 ■赤字：当院オリジナル

能力		臨床実践能力				リーダーシップとマネジメント能力				
能力の構成要素		ニーズをとらえる力	ケアする力	意思決定を支える力	協働する力	業務の委譲/移譲と管理監督		安全な環境の整備		組織の一員としての役割
能力および構成要素の定義	個別性に 応じた適切 な看護を 実践する	体系的な情報収集とアセスメント（整理・分析・解釈・統合）を行い、看護問題の優先順位を判断し、記録共有する。	患者とのパートナーシップ※3のもと、それぞれの状況に合わせた看護計画を立案・実施・評価し、実施した看護への対応を行う。	患者や関係者との信頼関係と対話、正確かつ一貫した情報提供のもと、患者がその人らしく生きるための意思決定を支援する。	患者や保健・医療・福祉および生活に関わる職種・組織と相互理解し、知識・技術を活かし合いながら、情報共有や相談・提案等の連携を図り看護を実践する。	組織の一員として看護、医療の提供を効率的・効果的に行うために、状況に応じたリーダーシップを発揮しマネジメントを行う能力。	業務の委譲/移譲と管理監督	安全な看護・医療提供環境の維持・実現のため、リスクの評価や適切なマネジメント方法の検討を行い、医療安全、感染予防、災害対応等を行う。	組織（チーム等）の中で、業務改善やチームワーク向上のために行動し、担当業務の優先度を考え、時間等の適切な管理のもと実施する。	
	学習項目	対象者との信頼関係の構築/情報収集の方法/アセスメント（身体面）（心理・精神面）（社会面）（スピリチュアル）/アセスメントの統合	看護計画/看護の実施と記録/実施した看護の評価/看護技術/状態や疾病に応じた看護/医療提供/地域での療養生活支援/臨床薬理/疾病・臨床病態/緊急時の対応	看護・医療の方針等を話し合うプロセス/意思決定を支えるコミュニケーション/意思決定の関係者への支援と連携	多職種・組織の理解と協働/多職種協働におけるコミュニケーション	看護チームにおける業務の委譲と実施/他職種への業務の移譲と実施	医療安全/感染管理/リスク管理と危険への暴露防止/災害への備えと対応	組織の目的・目標達成への貢献/業務管理/業務改善		
IV (旧 V)	より複雑な状況において創造的な実践を行い、組織や分野を超えて参画する	患者や状況（場）の関連や意味をふまえたニーズをとらえる	②複雑な問題を人々の価値観に合わせた判断ができる ③複雑な状況を把握し、患者を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる	②複雑な問題を人々の価値観に合わせた判断ができる ③患者の複雑なニーズに対応する見識（看護および看護以外の分野）を動員し、ケアを実践・評価・追求できる	②関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる ③目標に向かって多職種の協力を引き出すことができる ④複雑な状況（場）の中で見えにくくなった患者のニーズに適切に対応するための、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけられることができる ⑤多職種連携が十分に機能するように、その調整的役割を担うことができる	業務の委譲・移譲や業務遂行のプロセスが安全かつ効率的に行われるよう、組織や職種を超えた調整や教育に主体的に参画する	■他部門と協働した目標に向けた調整ができる	事故や問題の発生時、平常時の危機管理体制の整備や見直しに、組織や職種を超えて主体的に参画する	業務改善や人材育成のためにリーダーとしての役割を担い目標達成に参画するとともに、組織を超えた変革や人材役に参画する	
	幅広い視野で予測的に実践を行い、ロールモデルとなる	幅広い視野で予測的に実践を行い、ロールモデルとなる	②意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる ③予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる	②幅広い視野で患者をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的におよび予防的に看護実践ができる ③患者の顕在的・潜在的なニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる	②多職種間の連携が機能するように調整できる ③多職種の活力を維持・向上させる関わりができる ④患者がおかれた状況（場）を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主観的に多職種と協力し合うことができる	組織において、看護チーム内および他職種への業務の委譲・移譲や業務遂行のプロセスが安全かつ効率的に行われるよう、マニュアル等の見直しに参画する	②■部署においてアサーティブな関わりができ総合的なリーダーシップを発揮できる ③後輩のロールモデルとなり学習を支援する ④役割を担うスタッフの支援ができる	事故や問題の発生時にも主体的に行動し同僚を支援するとともに、潜在的なリスクに対する平常時から同僚からの危機管理	組織の目標達成のための業務改善や同僚の支援を行うリーダーとしての役割を担い、改善すべき点は同僚にフィードバックする	
III (旧 IV)	個別の状況に応じた判断と実践を行う	患者や状況（場）の特性を踏まえたニーズをとらえる	②得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる ③患者の身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性を踏まえた必要な情報収集ができる	②患者の個性をとらえ、看護実践に反映させることができる ③患者の個性に合わせた適切なケアを実践できる ④患者の顕在的・潜在的なニーズを察知しケアの方法に工夫ができる	②積極的な多職種に働きかけ、協力を求めることができる ③■入院～退院後まで見据えて、患者・家族、地域との関係を調整することができる ④患者の個別なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる ⑤患者とケアについて意見交換できる	①看護実践者として後輩に支援的役割を果たしている ②■部署において達成に向けて主体的なリーダーシップを発揮し、その役割と責任を果たすことができる	事故や問題の発生時、同僚の安全を確保し最小限にする行動をとる	②■部署における課題を明確にし、目標を示しながら管理行動がとれる ③■部署のリーダーとしての役割を担い、目標達成に向けリーダーシップを発揮できる		
	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	患者や状況（場）のニーズを自らとらえる	②得られた情報をもとに、患者の全体像としての課題をとらえることができる ③自立して患者に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる	②患者の状況に応じた援助ができる ③患者の個性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる ④患者に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる	②患者を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解し、それと積極的に情報交換ができる ③関係者と密にコミュニケーションを取りとることができる ④看護の展開に必要な関係者を特定できる ⑤患者やその家族との関係を良好に築くことができる	看護チーム内の他職種の法的権限や役割を理解し、自立して業務を委譲下業務の実施確認をする	②■チームリーダーとして優先順位をつけ行動することができる	安全な環境整備 ①■部署においてスタッフ間の信頼関係を築くことができる	②■部署の目標に向けて、自己の役割と責任を果たすことができる ③■メンバーシップを理解し、状況に応じて適切な対応ができる ④■1日の業務計画を効率的に立案し実践することができる	
II (旧 III)	個別の状況に応じた判断と実践を行う	患者や状況（場）の特性を踏まえたニーズをとらえる	②得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる ③患者の身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性を踏まえた必要な情報収集ができる	②患者の個性をとらえ、看護実践に反映させることができる ③患者の個性に合わせた適切なケアを実践できる ④患者の顕在的・潜在的なニーズを察知しケアの方法に工夫ができる	②積極的な多職種に働きかけ、協力を求めることができる ③■入院～退院後まで見据えて、患者・家族、地域との関係を調整することができる ④患者の個別なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる ⑤患者とケアについて意見交換できる	①看護実践者として後輩に支援的役割を果たしている ②■部署において達成に向けて主体的なリーダーシップを発揮し、その役割と責任を果たすことができる	事故や問題の発生時、同僚の安全を確保し最小限にする行動をとる	②■部署における課題を明確にし、目標を示しながら管理行動がとれる ③■部署のリーダーとしての役割を担い、目標達成に向けリーダーシップを発揮できる		
	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	患者や状況（場）のニーズを自らとらえる	②得られた情報をもとに、患者の全体像としての課題をとらえることができる ③自立して患者に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる	②患者の状況に応じた援助ができる ③患者の個性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる ④患者に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる	②患者を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解し、それと積極的に情報交換ができる ③関係者と密にコミュニケーションを取りとることができる ④看護の展開に必要な関係者を特定できる ⑤患者やその家族との関係を良好に築くことができる	看護チーム内の他職種の法的権限や役割を理解し、自立して業務を委譲下業務の実施確認をする	②■チームリーダーとして優先順位をつけ行動することができる	安全な環境整備 ①■部署においてスタッフ間の信頼関係を築くことができる	②■部署の目標に向けて、自己の役割と責任を果たすことができる ③■メンバーシップを理解し、状況に応じて適切な対応ができる ④■1日の業務計画を効率的に立案し実践することができる	
I (旧 II)	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	患者や状況（場）のニーズを自らとらえる	②得られた情報をもとに、患者の全体像としての課題をとらえることができる ③自立して患者に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる	②患者の状況に応じた援助ができる ③患者の個性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる ④患者に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる	②患者を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解し、それと積極的に情報交換ができる ③関係者と密にコミュニケーションを取りとることができる ④看護の展開に必要な関係者を特定できる ⑤患者やその家族との関係を良好に築くことができる	看護チーム内の他職種の法的権限や役割を理解し、自立して業務を委譲下業務の実施確認をする	②■チームリーダーとして優先順位をつけ行動することができる	安全な環境整備 ①■部署においてスタッフ間の信頼関係を築くことができる	②■部署の目標に向けて、自己の役割と責任を果たすことができる ③■メンバーシップを理解し、状況に応じて適切な対応ができる ④■1日の業務計画を効率的に立案し実践することができる	
	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	患者や状況（場）のニーズを自らとらえる	②得られた情報をもとに、患者の全体像としての課題をとらえることができる ③自立して患者に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる	②患者の状況に応じた援助ができる ③患者の個性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる ④患者に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる	②患者を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解し、それと積極的に情報交換ができる ③関係者と密にコミュニケーションを取りとることができる ④看護の展開に必要な関係者を特定できる ⑤患者やその家族との関係を良好に築くことができる	看護チーム内の他職種の法的権限や役割を理解し、自立して業務を委譲下業務の実施確認をする	②■チームリーダーとして優先順位をつけ行動することができる	安全な環境整備 ①■部署においてスタッフ間の信頼関係を築くことができる	②■部署の目標に向けて、自己の役割と責任を果たすことができる ③■メンバーシップを理解し、状況に応じて適切な対応ができる ④■1日の業務計画を効率的に立案し実践することができる	
新人 (旧 I)	基本的な看護手順に従い、必要に応じて助言を得て看護を実践する	助言を受けながら、安全な看護を実践する	②患者の状況から緊急度をとらえることができる ③助言を受けながら患者に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる	②看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる ③助言を受けながら、安全な看護を実践する	②患者を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる ③助言を受けながら患者や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる	基本的な業務手順に従い、必要に応じて助言を得て実践する	■助言を受けながら担当業務については最後までやり遂げ優先順位をつけることができる	助言を受けながら、安全な環境整備に関するルールに基づき行動する	自身の業務を時間・時間通りに行うとともに、組織（チーム等）の一員としての役割を理解する	
	必要な助言を得て実践する	助言を受けながら、安全な看護を実践する	②患者の状況から緊急度をとらえることができる ③助言を受けながら患者に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる	②看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる ③助言を受けながら、安全な看護を実践する	②患者を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる ③助言を受けながら患者や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる	基本的な業務手順に従い、必要に応じて助言を得て実践する	■助言を受けながら担当業務については最後までやり遂げ優先順位をつけることができる	助言を受けながら、安全な環境整備に関するルールに基づき行動する	自身の業務を時間・時間通りに行うとともに、組織（チーム等）の一員としての役割を理解する	

